

あずっ子だより



令和8年度 第3号
東町小学校だより
6月1日

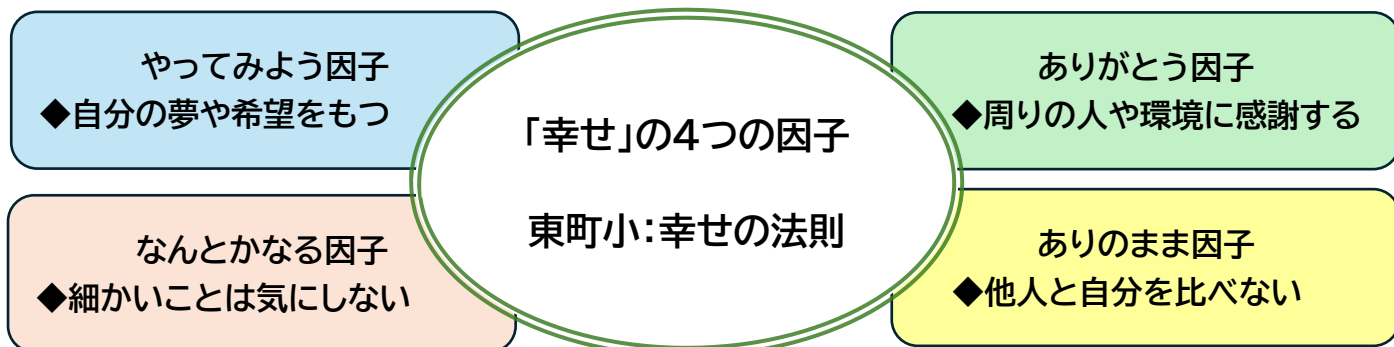
東町小学校の子どもたちは、純粋で新しいことをどんどん吸収していきます。子どもたちのやる気と実力を伸ばすために全校児童に伝えた言葉があります。

“できる できる やればできる”

この言葉は、学力テストや物事に挑戦するとき、直前で三回唱えたと自分のもつ力を発揮できるという魔法の言葉です。子どもたちはすぐに、「できる できる やればできる」と口を大きく開けて、はっきりとした声で唱えてくれました。東町小学校の子どもたちは、自分の力を信じて伸ばしたいと願う子どもたちが多いです。やる気と元気があふれる子どもたちとこの言葉を唱えながら、さらに学校教育を活力のあるものにしてまいります。東町小学校が笑顔と喜びにあふれ、幸せを感じられる学校となると嬉しいです。

地域そして保護者の皆様も、ぜひ、子どもたちの姿をご覧いただき、励ましてくださいますと幸いです。子どもも大人も元気いっぱいの東町小学校を目指して、日々尽力してまいります。

校長



触れられることが思いやりを生む



子どもの「心」を育てるには、子どもに触れることが重要です。特に、親との肌と肌が触れる感覚は、子どもにとって大きな安心感となり、自分も相手も大切にすると心につながっていきます。

抱っこされたり、親からいろいろな世話を受けて、身体的にも心理的にも欲求を満たされた子どもは、「わがままになる」ということはなく、スキンシップによって得た安心感が、自立して世の中を探求していくための基盤となります。

思いやりのある子に育ててほしい、相手の気持ちをわかってほしい、と口で伝えたところで、実際に思いやりのある心は育ちません。幼少期の親との関りの中で、少しずつ思いやりの心が育ってきます。

「思いやり」は「思いやられる」ことで育つのです。子どもが大人から愛されたり、思いやられたりすることを感じることが、相手を思うことへつながるのです。

【子供の「脳」は肌にある：山口 創氏】

東町小学校では、昨年度「親子でハグをしよう！」という取り組みをしました。親子のスキンシップが、親も子どもも笑顔になれる時間となったと高評価だったそうです。日頃から、子どもの存在を認め、愛のあるハグをしてみませんか？ 愛のある家庭で育った子どもは、家庭を安心基地として学校で活躍してくれるでしょう。